

# 大学連携地域力創造プロジェクト業務委託 ～武蔵地区商店街らしさとは何かを知る～

団体名●地域システム学科／代表者名●今村智子（経済学部地域システム学科・准教授）

## はじめに

本事業は、金沢市大学連携地域力創造プロジェクトとして金沢市と連携し実施した。加えて、金沢中心商店街武蔵活性化協議会と本学との連携に基づき、武蔵地区商店街の活性化、並びに、学生の学修の発展に寄与することを目的とし取組を行った。

地域システム学科1年次必修講義「フィールドワーク基礎演習」において、学生から見た金沢らしさ、武蔵地区らしさとは何かを明らかにすることを目的に調査・分析を行った。加えて、調査結果を地域活性化に活かす取組も行った。

## 活動内容

受講生は110名。第1回は調査倫理、研究倫理、フィールドワークの心得を、第2回は研究の必須条件、リサーチクエスチョンを学び、研究の基礎的な作法を学修した。第3回は武蔵地区商店街について、インターネット検索に加えRESASやe-statを用いデータ調査を実施した。第4回、5回は実際に武蔵地区を歩き、目視による調査を2週連続で実施した。第6回は得られたデータの整理を行った。第8～10回はデータをエクセルで分析し、表やグラフで表したり、GISを用い調査結果を地図上に表示したりし、調査報告書を作成した。また、第7回では金沢市都市政策局地域力再生課の職員による金沢市が取り組んでいるまちづくり政策についての講義を受けた。



武蔵地区商店街におけるフィールド調査の様子

## 成果、結果の考察

2日間のフィールド調査の結果、合計281件の有効なデータを収集することができた。そのうち80%が石川県内者で、20%が県外出身者であった。武蔵地区を訪れるのが「初めて」または「年に1回程度」と回答した学生が全体の72%を占め、学生にとって伝統的な商店街を知る貴重な機会であったことが明らか

となった。また、「武蔵地区らしさを感じた点」として最も多く挙げられたのは景観で、次いで店、建物、販売物と続いた。地域らしいと感じた理由は、「地域の歴史や文化が感じられるから」との声が多く、地域資源として次世代へ「このままの姿で残したい」という回答が約7割という結果が得られた。

調査結果をふまえ、調査報告書で活性化案の提言を行うだけでなく、学生自身が武蔵地区へ行くことが地域活性化への一歩になると考えた。そこで、武蔵地区に多く見られる伝統工芸関連の店舗へ学生が自ら訪問し、地域の人々と交流を持ちつつ、文化体験を行う課題を課すことで、より深い理解促進へとつなげた。

## 今後の展望

地域づくりは継続することで、効果が得られる。よって、同シラバスを数年継続していく必要がある。



金沢の和菓子文化を体験



ユネスコの無形文化遺産にも登録された縁付金箔



加賀毛針が時代に合わせフェザーアクセサリーに